

## あとがき

アメリカのアジア政策というテーマは、ベトナム戦争や米中関係などとの関係でわが国でもたえず話題となってきた。もちろんこのテーマについて多くの著作や論文が発表されてきた。

しかし第二次大戦後のアメリカのアジア政策について、大戦直後の時期から現時点、すなわち一九九〇年に至る期間について、アジアにおける主要な出来事とアメリカの政策とを関連づけるがら系統的に論じた書物は、比較的少ないのではないかと思われる。

本書は、一九五〇年の朝鮮戦争以降九〇年に至るアメリカのアジア政策を、その間のアジアにおけるさまざまな政治的出来事と関係づけながら記述してきたものであり、この点でこの分野の研究の発展に貢献することを願っている。

一方これまでのアメリカとアジアとの関係を論じた書物では、アジアの政治的動向、それに対するアメリカの政策が主要な研究対象であり、アジアにおけるアメリカの政策展開と並行して、当のアメリカ自体の経済がどのように動いてきたかを論述したものは、あまりなかったように思われる。

本書はまた、アメリカのアジアを含む反ソ戦略の展開が、アメリカ経済にいかにか大きな負担となってきたかを詳しく論じており、この点でも、この分野の研究の今後に貢献したいと考えている。

論述を進めていくうえで、筆者は可能な限り事実の流れに基づいて、生起した出来事とアメリカの政策との関連を分析しようとしてきた。この場合、最も重要な材料となったのは一九六〇年代にアジア経済研究所が発行した月刊『アジアの動向』と、一九七〇年以来刊行されているそれが発展した形の『アジア動向年報』（一時『アジア中東動向年報』となる）であった。筆者はこれらの出版物の執筆、制作に加わっていたが、我田引水気味ではあるが、改めてその利用価値の高さを実感している。

なお本書の出版については、アジア経済研究所とアジア経済出版会の諸氏に深くお礼を言いたい。しかし本書の全ての欠陥は、筆者一人に帰すものであることはいうまでもない。

一九九〇年一〇月

今川 瑛一